

平成24年度 事業報告書

I	法人の概要	1 頁
II	事業の概要	5 頁
III	財務の概要	9 頁

学校法人 青森山田学園

I 法人の概要

1. 建学の精神

学校法人青森山田学園には独特の教育力がある。それは創立者、山田きみ先生を源に、教職員、学生、生徒、園児、そして県内外の方々の願いや才能、献身的な支援が「誠実」「勤勉」「純潔」「明朗」の校訓のもと、100年近く脈々と培われてきたものである。こうした私たちの教育力とは、いうまでもなく個々の人格形成にも寄与するもので、時には厳しくとも、豊かで美しい青森に生きる人々の不屈の精神や信条に共通するものである。

天災や原発事故など多難で、社会全体の先行きが見えづらいこの時代、本学園で専門的知識は当然のこと、新たな出会いや体験を通して、未来へのより確かな道筋を、若人に示して行きたいと考えている。

2. 沿革

年月日	沿革
大正 7年	創立者山田きみ裁縫塾開設
昭和 6年 3月 5日	青森家政学園創立
昭和 8年 3月 31日	実業学校令 山田高等家政女学校認可
昭和23年 3月 11日	財団法人山田学園設立、山田高等学校認可
昭和26年 3月 12日	財団法人組織変更、学校法人山田学園となる。高等学校男子部認可
昭和35年 2月 13日	呉竹幼稚園認可
昭和37年 1月 20日	青森短期大学商経科第一部認可
昭和37年 1月 20日	学校法人山田学園を学校法人青森山田学園と改称
昭和41年 1月 25日	青森短期大学商経科第二部認可
昭和43年 3月 15日	青森大学経営学部経営学科認可
昭和53年 1月 9日	十和田幼稚園認可
昭和55年 1月 21日	北園幼稚園認可
昭和56年 1月 16日	青森大学社会学部社会学科認可
昭和57年 1月 23日	青森山田高等学校自動車専攻科認可
昭和60年 3月 14日	螢ヶ丘幼稚園認可
平成 3年12月 20日	青森大学工学部（電子情報工学科、情報システム工学科、生物工学科）認可
平成 8年12月 19日	青森大学経営学部産業学科・社会学部社会福祉学科認可
平成10年 3月 31日	青森山田高等学校通信制課程認可
平成10年12月 22日	青森大学大学院環境科学研究科（環境管理学専攻修士課程・環境教育学専攻修士課程）認可
平成12年 3月 31日	青森県ヘアアーティスト専門学校認可
平成13年 3月 30日	青森山田中学校認可

平成15年 7月10日	青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科届出 (工学部電子情報工学科・情報システム工学科を改組)
平成15年11月27日	青森大学薬学部医療薬学科(4年制)認可(工学部生物工学科を改組)
平成16年 4月 1日	青森大学工学部(電子情報工学科、情報システム工学科、生物工学科)募集停止
平成16年 4月 1日	青森大学経営学部産業学科をビジネス情報学科へ名称変更
平成16年 4月 1日	青森短期大学商経科第二部募集停止
平成16年 4月 1日	青森短期大学商経科をビジネス創造学科へ名称変更
平成17年 4月 1日	青森大学経営学部ビジネス情報学科募集停止
平成17年 7月29日	青森大学薬学部薬学科修業年限の延長(6年制)届出
平成18年 4月 1日	青森短期大学ビジネス創造学科を地域創造学科へ名称変更
平成19年 3月30日	十和田幼稚園廃止認可
平成21年 3月30日	青森大学工学部廃止届出
平成21年 3月30日	青森短期大学商経科第二部廃止届出
平成24年 4月 1日	青森大学社会学部社会福祉学科募集停止
平成24年 4月 1日	青森大学大学院、青森短期大学募集停止

3. 設置する学校・学部・学科等

- (1) 青森大学 大学院 環境科学研究科
経営学部 経営学科
社会学部 社会学科、社会福祉学科
ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科
薬学部 薬学科
- (2) 青森短期大学 地域創造学科
- (3) 青森山田高等学校 全日制課程 普通科、情報処理科、調理科、自動車科
建築デザイン科、自動車専攻科
通信制課程 普通科
- (4) 青森山田中学校
- (5) 呉竹幼稚園
- (6) 北園幼稚園
- (7) 蛸ヶ丘幼稚園
- (8) 青森県へアアーチスト専門学校 衛生専門課程

4. 平成24年度 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況

学校名	学部学科等		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
青森大学	大学院	定員		20					20	
		現員		5					5	
	経営学部	経営学科	定員	130	130	130	130			520
			現員	63	81	101	104			349
	社会学部	社会学科	定員	90	90	90	90			360
			現員	56	34	38	60			188
		社会福祉学科	定員		60	60	60			180
			現員		42	38	38			118
	ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	定員	50	50	50	50			200
			現員	26	25	29	26			106
	薬学部	薬学科	定員	90	90	90	90	120	120	600
現員			45	62	56	61	43	107	374	
大学計		定員	360	440	420	420	120	120	1,880	
		現員	190	249	262	289	43	107	1,140	

学校名	学部学科等		1年	2年				計
青森短期大学	地域創造学科	定員		60				60
		現員		38				38
	短大計		定員		60			60
			現員		38			38

学校名	学部学科等		1年	2年	3年			計
青森山田高等学校	全日制課程	普通科	定員	320	280	280		880
			現員	252	316	265		833
		情報処理科	定員	40	40	40		120
			現員	31	28	26		85
		自動車科	定員	40	40	40		120
			現員	21	21	18		60
		建築デザイン科	定員		40	40		80
			現員		3	6		9
		調理科	定員	40	40	40		120
			現員	39	33	34		106
	通信制課程	普通科	定員	560	560	560		1,680
			現員	117	219	300		636
	専攻科	自動車科	定員	50	50			100
			現員	20	11			31
高校計		定員	1,050	1,050	1,000		3,100	
		現員	480	631	649		1,760	

学校名	学部学科等		1年	2年	3年			計
青森山田中学校		定員	60	60	60			180
		現員	57	71	64			192
	中学校計		定員	60	60	60		180
			現員	57	71	64		192

学校名	学部学科等		3歳児	4歳児	5歳児			計	
幼稚園	呉竹幼稚園	定員	30	35	35			100	
		現員	15	22	14			51	
	螢ヶ丘幼稚園	定員	30	35	35			100	
		現員	8	9	7			24	
	北園幼稚園	定員	20	30	30			80	
		現員	13	24	15			52	
	幼稚園計		定員	80	100	100			280
			現員	36	55	36			127

学校名	学部学科等		1年	2年				計
青森県 ヘアースタ 専門学校		定員	80	80				160
		現員	56	47				103
	専修学校計		定員	80	80			160
			現員	56	47			103

5. 役員・教職員の概要等

① 青森山田学園 理事・評議員・監事の概要 (平成25年3月31日現在)

	氏名
理事長 理事・評議員	盛田 稔
副理事長 理事・評議員	木村 雅大
常務理事 理事・評議員	岡島 成行
理事・評議員	崎谷 康文
理事・評議員	成元 善一
理事・評議員	山田 真嗣
理事・評議員	細井 仁
理事・評議員	倉光 重
理事・評議員	三浦 祐一
理事・評議員	大森 繁
理事・評議員	楠美 知剛
監事	村井 昇平
監事	福士 大二

	氏名
評議員	加川 史
評議員	西 秀記
評議員	雪田 清紀
評議員	田辺 友俊
評議員	雨森 輝昌
評議員	渡邊 俊治
評議員	大平 幸子
評議員	上原子 勲
評議員	生田 勝幸
評議員	鹿内 秀治
評議員	佐々木 信弘
評議員	穴戸 聡純
評議員	稲見 裕
評議員	藤 公晴

② 学園教職員の状況

部門	学部	教職員数				対前年度 増減
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
青森大学	大学院	4	4	3	2	-1
	経営学部	23	23	21	22	+1
	社会学部	34	32	31	26	-5
	ソフトウェア情報学部	16	15	14	15	+1
	薬学部	28	28	27	28	+1
	職員	42	42	39	32	-7
青森短期大学	地域創造学科	12	12	11	7	-4
	職員	2	2	2	2	0
青森山田高等学校	全日制課程	69	68	69	69	0
	通信制課程	11	10	10	13	+3
	自動車専攻科	5	5	5	4	-1
	職員	20	22	22	27	+5
青森山田中学校	教員	14	12	13	13	0
	職員	2	2	2	1	-1
幼稚園	教員	14	14	14	14	0
	職員	0	0	0	0	0
青森県ヘアアーティスト専門学校	教員	8	8	8	9	+1
	職員	1	1	1	1	0
法人本部	職員	25	23	22	20	-2
合計		330	323	314	305	-9
他 非常勤教職員		137	140	136	133	-3

II 事業の概要

1. 総務関係

(1) 学園内の寮管理緊急連絡網について

高校野球部の生徒死亡事故の再発防止策の一つとして、寮監連絡先を各寮へ掲示し、緊急連絡網体制を整えた。

(2) 学園運営委員会議を開催

事務長会議において各校との調整をしてきたが、更に本部の幹部および学長、校長、園長等との会議の中で、学園の今後の運営等について推進していくこととなった。

(3) スチューデントプラザへの高校からの寮生移動

スチューデントプラザへの高校からの寮生移動について、在寮している各クラブの顧問と個別面談し協力依頼をしたが、状況が変わることに対して生徒の管理体制及び練習等の利便性など諸問題があり、先送りすることとなった。

(4) 研修

各校研修会を実施、昨年までは大学の教職員、高校の教職員の研修会が学校単位で実施されてきたが、今年度より幼稚園、ヘアアーティスト、本部職員、通信校の教職員、校務員を対象に総務部主催で実施され、各校の現場からの意見が活発に出され現状の状態について課題等も再発見され、その実を上げた。

(5) 給与等の削減

財源確保のために各種手当及び賞与等の第二次削減案について学園の教職員に対し説明会を24年7月13日(金)に実施し教職員の理解を得た。しかし財政上の問題が発生し、25年度から復活予定であった一部手当も含め、更に25年3月18日(月)に昨年の8月から実施された各種手当及び賞与等について25年度も引き続き削減をしていくことを前回と同様に説明会を実施し教職員の理解を得た。会場は大学と高校の2か所、十和田および通信校については現地で説明会を実施し教職員の理解を得たものである。

(6) 理事・評議員の選任

5月25日開催の理事会において新理事長に盛田 稔氏(元青森大学学長)が選任された。同じく青森大学学長の崎谷康文氏が理事及び評議員に選出された。尚、理事及び監事、評議員の任期を統一した。

(7) 耐震診断

5月12日に青森大学3号館および平成25年1月29日に青森大学4号館の耐震診断を実施している。4号館については竣工が昭和55年で築後33年を経ているが内部劣化は見られなかった。また3号館についても同じ昭和55年に竣工しているが多少のひび割れがあるが特に問題がないという結果が出た。

2. 財務関係

(1) 法人内における具体的な目標の共有

私立学校としての在るべき将来像を理事会と教職員が共有する。財務等に関する情報を開示し、教職員に経営に参画する意識を持たせ、提言させることで、理事会と教職員が一体となって経営改善努力を行う。

(2) 働きがいがある職場作り

教職員が具体的な目標と行動指針を共有するとともに、自由に教育研究の改善や経営改善について提言し、学園づくりに参画している意識を持たせることで、働きがいがあり、誇りをもって教育研究にあたることのできる職場をつくる

上記を踏まえた達成状況は下記の通りとする。(※部分)

(3) 法人の帰属収支差額の適正化

経営組織と予算管理体制の見直しにより、平成19年度決算において法人の帰属収支差額はプラスとなった。但し、近年の入学者数の減少により20年度以降の収支は大変厳しいものとなる。更なる経費の削減に努め適正化していかなければならない。しかし、長期借入金の残高は減少傾向にある

学生・生徒募集による入学定員充足率をアップすることにより平成24年度を目処に帰属収支差額が安定しプラスとなるようにする。

① 数値目標と達成期限

24年度目標数値として帰属収支差額をプラスとする。

※帰属収支差額は平成24年度で約△4千万円となったが、減価償却前で約353百万円の黒字となっている。

また、決算については教職員及び一般にインターネット等を通じ情報を公開していく。

② 経営改善計画の履行

1) 計画内容は半年に一度見直しを行い、必要に応じて修正する。

※理事会、評議員会の承認のもと修正を行ってきた。

2) 本学園の危機的な経営状況に対処するために、緊急措置として厳格な支出削減を行う。特に個人研究費の削減、予算管理委員会の活用により予算管理を徹底して行っていく。

また、管理・財政検討委員会から提言のあった人件費、一般経費の削減を平成24年度より緊急的に行っていく。

※予算管理については、過去の未払金請求が多く計画通り行われなかった。

教職員のご協力により人件費及び一般経費の一部を除き削減を行うことができた。

③ 経費削減計画

学生生徒数の減少による納付金の減少により、消費支出が経営状況を圧迫している。そのため、平成17年度より支出の削減に取り組んでいる。奨学金の削減についてはスポーツ特待の見直しを行っている。給水光熱費については、節水ハンドルを取付け、学生生徒に対しても節水節電を呼びかけている。消耗品などは一括購入や業者の見直しを行っている。その他経費につい

ても入札等を行い、削減に取り組んでいる。

※これまでも取り組んでいるが今後さらなる改善を目指し取り組んでいく。

④ 施設設備計画

該当なし

ただし、財政再建により早い時期に計画を立案していく。

※今後プロジェクトチーム等を発足し計画立案を行っていく

⑤ 外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画

寄付金の募集(寄付者の指定により、3基金に分ける)、補助金の掘り起しにより補助金額のアップ検討、科研費の申請をさらに強化していく。

1) 寄付金

- ・青森山田学園財政基盤安定化基金
青森山田学園全体の財政基盤安定的に維持するため必要な基金
 - ・青森山田学園施設設備基金
青森大学等の施設の改修・更新等のため必要な基金
 - ・青森大学ルネッサンス基金
青森大学の教育研究の活性化と充実のため必要な基金
- 24年度から特別にスタートしていく
※上記寄付金については平成24年度からスタートし募集を開始した。

2) 特別補助・科研費

特別補助金や科研費等の申請により外部資金確保に努める。

※これまでより外部資金獲得のため申請は多くなっている。

今後、さらなる確保のため努力していく。

⑥ 遊休資産の売却

平成17年度より遊休資産の売却を進めている。これまで旧本部があった物件等売却をしているが、十和田湖畔にある花鳥溪谷及び十和田おいらせ荘については不動産会社に売却依頼をしているが、現状は売却契約締結まで至っていない。今後も遊休資産については売却を進めていく。

※遊休資産売却のため進めているが、本部単独での売却推進を、今後プロジェクトチームを発足し推進を進めていく

⑦ 借入金等の返済計画

みずほ銀行分については、年間2億円の元金返済に変更し借換えした。

(平成20年8月より)

平成24年度より1億円の元金返済に変更のためみずほ銀行に依頼中。

※みずほ銀行に承認をいただき、元金返済を1億円の返済となった。

3. 広報関係

抜本的な財政再建を進める中、広報部は、部長と2名の副部長を含む7名体制(うち3名は兼務)のもと、学園全般の広報関連の媒体業者との契約業務を集約して担いながら、費用対効果などを含め

た学園の広報活動の効率化を図った。こうした中、以下の事業に取り組んだ。

① 青森大学と青森山田高等学校の進学に関する情報交換会

青森山田高等学校から青森大学への進学者の増加を図ることを目的に、大学と高校の教職員の情報交換・意思疎通の機会を計4回設けた。その結果、同高校から青森大学への入学者数は35名（通信制課程からの入学者は4名）と低かった。その理由としては、大学に関する情報不足、高大のクラブ活動の連動性の低さ、システム化された意思疎通体制の欠如などである。こうした課題を踏まえ、平成25年度は情報交換の継続や拡充に加え、意思決定レベルにおけるより積極的な企画調整と連携体制の構築、これらを支え実現させる教職員の意識改革が求められる。

② グッズの製作と販売

収入部門の増加と学園のPRを目的に、学園のグッズの販売企画について検討を重ねた結果、8月のネブタ祭に合わせて、学園の山車のデザインを盛り込んだオリジナル手ぬぐいを1000本製作し完売した。手ぬぐいについては、平成25年度も継続して製作・販売する予定である。

③ 100周年記念事業等の実施に向けた他の教育機関の調査と規程案作成

100周年を数年後に控え、他の学校法人における取組みと記念事業実施にかかる諸規程の調査を行い、記念事業推進室に関する規程（案）、事業企画運営委員会規程（案）、事業実行委員会細則（案）、記念イベント案、記念グッズ案などを作成した。

④ 取材依頼のシステム化

平成24年度から、学園諸機関で行われる様々な教育行事や取組みに関する情報を広報部が積極的に集約し、23の報道機関に取材依頼を行い始めた。その結果、新聞やテレビにおける露出が増えた。

⑤ 学園諸機関のホームページ製作

大学以外の諸機関のホームページをすべて刷新した。平成25年度は法人本部のホームページと教職員専用のサイトを作成する予定である。

⑥ 広告媒体の製作

広報部では、学園各機関の学校案内や募集要項、願書の製作、イベント毎のポスター・チラシ、新聞広告の製作を行った。平成24年度はおよそ80種類の製作を完了している。

⑦ 同窓会名簿の作成

学園各機関の同窓会名簿を広報部で一括して取りまとめ始めた。予算や人員等の都合もあり、平成25年度はデータの更新作業と実際の運用を図ることとする。

⑧. その他(報道対応など)

平成24年8月にはロンドン・オリンピックが開催され、高等学校在校生および卒業生が合計6名出場し、女子卓球団体が銀メダル、女子バドミントン団体が銀、男子卓球団体が5位入賞を果たした。こうした生徒の活躍とは別に、平成23年12月に高等学校野球部の寮で起きた死亡事故にかかる訴訟や野球部関連施設における連続火災に関する報道露出も多く、平成24年度前期は報道対応に追われた。

Ⅲ 財務の概要

【別紙2-①】参照。